

## &lt;別紙1&gt;

## 第三者評価結果報告書

## ① 第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

## ②施設・事業所情報

名称：にじいろ保育園新杉田	種別：保育所	
代表者氏名：園長 中嶋 久子	定員（利用人数）： 80名（92名）	
所在地： 神奈川県横浜市磯子区杉田4-5-8		
TEL：045-349-2612	ホームページ： <a href="https://www.like-kn.co.jp/academy/establishment/nijiiro/shinsugita/index.html">https://www.like-kn.co.jp/academy/establishment/nijiiro/shinsugita/index.html</a>	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2013年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：ライクアカデミー株式会社		
職員数	常勤職員： 19名	非常勤職員： 6名
専門職員	（専門職の名称）	
	看護師 1名	栄養士 2名
施設・設備 の概要	（居室数）	
	・保育室6・厨房1・休憩室1 事務室1・会議室1・相談室1	（設備等） ・園庭 ・駐車場

## ② 理念・基本方針

保育理念：のびやかに育てだいの芽  
あたたかな環境の中で、一人ひとりの心に寄りそい、人や物・自然との豊かな出会いや  
体験を通して生きていく力を育てます。

保育方針：みとめ愛 みつめ愛 ひびき愛

めざす保育園像：『陽だまりのような保育園』『地域と共に育つ保育園』『子どもと共に輝いていける保育園』

家庭的で「陽だまり」のような温かな保育園が「にじいろ保育園」です。地域の皆様も  
気軽に集い、子どもたちを中心に保護者・地域・保育園が子育ての楽しさを共に分かち  
合い、生き生きと輝いていける保育を目指します。

保育目標：『自然を愛し、心身ともに健やかな子ども』

- ・歩く、走る、飛ぶなど戸外での活動を通して、体を動かす楽しさを知った子ども。
- ・自然に親しみ、情緒豊かな心・知的興味や関心を育て、思考力、認識力を培い、科学的に観察する力をもった子ども。にじいろ保育園の保育は外遊び、散歩を中心に沢山自然に触れ、体を十分に動かす活動を大切にしています。様々な自然体験や泥遊び・水遊び等、子どもの時にしか味わえない感覚体験を沢山取り入れていきます。

『自分で考え行動し、意欲と根気のある子ども』

・意欲・想像を掻き立てられる環境の中で子ども自らが主体的に行動し「やってみたい」と思える子ども。

・様々な遊びや実体験を通じ想像力を養いながら、正しいと思うことがわかり自分で行動する力、困難にも立ち向かい簡単にあきらめない心をもった子ども。

やらせる保育ではなく、子どもが主体となって生活することを第一に考えます。

遊びや生活の中で自分のやりたいことを見つけ、自ら取り組もうとする意欲を育てていきます。

『仲間と関わり、人を思いやれる子ども』

・相手の人権を尊重し、思いやりのある子ども。

・やさしく愛され見守られる中で、人を愛したり、やさしくすることに喜びを持てる子ども。

保育園は0歳児から6歳児まで異年齢の関わりが出来、兄弟の少ない現代の子どもたちにとっては最高の環境ともいえます。

小さい子が大きい子に憧れ、大きい子が小さい子をいたわり、思いやりの気持ちが自然と養われています。

『自己を表現できる子ども』

・さまざまな生活の場面で、自分の思いを「自分らしく」表現できる子ども。

・豊かな経験を通して物を見たり・感じたり・考えたりし、喜びや驚きを伝えられる子ども。

乳幼児期はたくさん笑い、泣き、喜んだり怒ったりと自分の感じた事をありのままに表すことが大切であるといわれます。子どもにとって、その表し方は言葉だけでなく様々な表現方法があります。絵を描くことで自分を表す子、制作が好きな子、身体表現が好きな子、音楽を楽しむ子、絵本を見ることが好きな子などその子らしい自分の表し方があります。将来、大人になった時、自分に自信を持ち、その子らしさを表に出せる「表現力の芽」を保育の中で引き出せるよう保育の計画に取り組んでいきます。

③ 施設・事業所の特徴的な取組

・本園の特色とした取り組みでは、普段の生活の中で異年齢の関わりが年々深みを増している。

・日々遊びが展開され、特に幼児クラスでは普段の遊びの中でごっこ遊びやお店屋さん盛りが盛り上がりを見せている。友だちと一緒に役になりきる事を楽しみ家庭での生活経験が遊びにも反映している。お店屋では、売り買いの魅力を異年齢とのやり取りの中で感じ、クラスだけでなく学年を越え乳児クラスのお友だちも招待したい気持ちが徐々に芽生え、現在ではお客と定員の関係が自然な形となり子どもの主体的な姿に繋がっている。クラスを行き来し好きな遊びを子どもたちがマネをし仲間に加わり、魅力的な遊び環境を年長児が中心となり展開している。そして、年長児は自分たちで生活しやすいお家の様な雰囲気で作っている。優しさや労りの気持ち・憧れの気持ちが遊びを通して育まれていると子どもたちの姿から感じ取れ、普段の生活が学びの場である事を職員が常に意識した保育・柔軟に子どもに合わせた保育を繰り広げられる職員一人一人の力が優れている点である。

・幼保小推進地区事業に参加し、幼児教育と小学校教育の連続性を理解し、幼児期の学びが小学校教育に繋がっていく事を学び小学校職員と顔の見える関係性を築いていった。

- ・保護者支援の中で、意見を受け止め寄り添いつつ、常に子どもを中心に於き考え助言している。
- ・地域交流では、地域の避難訓練に参加や新杉田公園の方と交流を図り花の球根植え、種まき、畑の土作り等関わりを重ねる事で顔の見える関係性を深められている。
- ・地域支援には、絵本の貸し出し、園見学（現在は中止）やコロナ禍の中、家にいる時間が増えストレスや子育て不安を軽減し楽しさをお子様と感じてもらえる目的で取り組みを始めている。家庭で遊べる手作りのおもちゃキットや身長計・マスクケースを作り少しでも子育ての力になっていける事を現在も継続している。
- ・よこはま緑の推進団体協議会に所属している。春と秋の2回、花の苗を子どもと一緒にプランターに植え替えをし環境の美化に努めている。そして、緑化活動を通し園舎外のフェンス越しに花を飾る事で、園児だけでなく地域の方や通行される方にも「綺麗」と声をかけて頂き、会話が生まれコミュニケーションを図る事にも繋がり、地域住民の気持ち心地良く感じてもらえるよう今後も取り組んでいく。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年6月17日（契約日）～ 2021年3月29日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（平成27年度）

#### ⑥総評

◇特に評価の高い点

**<組織一丸となって保育理念に沿った保育の実践に取り組んでいる>**

・各種の定例会議や経営層による定例の職員面談などを通じて職員の保育感に関する統一を図り、組織一丸となって保育理念に沿った保育が実践できるようにしている。日常の保育においては、保育士が子どもと一緒に遊びを楽しみながら保育を展開することを心がけている。今回行った保護者アンケートの総合的な満足度の結果についても、回答者の80.5%が「大変満足」あるいは「満足」と答えており、園の取り組みが結果を得ていることがうかがえる。

**<経営層による職員の自主性や主体性の促しが保育の質の向上に寄与している>**

・日々の朝ミーティングや毎月の定例会議などで園全体や個別情報の共有を図っている。急を要する場合は随時ミーティングを行い、出席していない職員には各クラスで伝えたり、会議録を回覧し周知徹底に努めている。共通認識のもと子どもの保育や保護者の支援にあたることに力を入れている。経営層は様々な機会を通じて情報共有を図り、職員一人ひとりが主体性をもって個々の保育をはじめ、各種の業務に取り組める園運営としている。より質の高い保育や保護者対応に寄与していることがうかがえる。

**<保護者の気落ちに寄り添い、日々の子どもの様子を丁寧に伝えるように取り組んでいる>**

・連絡帳、口頭、掲示などの様々な手法を用いて、子どもの様子について細かいことも含めて丁寧に伝えることに努めている。保護者の気持ちに寄り添い子どもの育ちと一緒に喜び、分かち合うことができるように取り組んでいることがうかがえる。うれしい、楽しいを一つでも多く感じてもらえるように、特に連絡帳の記載に力を入れており、記録の記述に差が出ないように、経営層が指導にあたっている。

◇改善を求められる点

**<子どもの関心を広げる環境をさらに充実させることを目指している>**

・子どもの要望に対応する保育環境をさらに充実させることを目指しており、定期的に

経営層も含めて話し合う機会を設け、見直しを検討している。具体的には遊びに集中できるようにコーナー作りをしたり、遊びの展開の様子をみて時間を延長したり、遊びが続けられるように片付けず置いたりなど、日常の保育の中で子どもが遊び込める時間と空間の充実を目指している。現状でも子どもの関心を広げるような環境づくりがされているが、検討の余地があることを認識していることから、さらなる工夫に期待したい。

**<保護者の意見をさらに傾聴し説明責任を果たしていくことを目指している>**

・今年度はコロナ禍にあるため、保護者会や保護者参加の行事も縮小、中止となり、保護者同士の交流や職員との交流の機会が通常よりも少なくなっている。可能なツールを使用して保護者との情報共有に努めているが、保護者アンケートでは様々な意見や要望が聞かれている。これらを真摯に受け止めており、保護者一人ひとりの満足が得られるように、さらに説明責任を果たすとともに、傾聴により力を入れていくことを目指している。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

八年前の春に保護者の方が安心してお子様を預けられる『陽だまりのように温かい保育園』づくりを目指して開園して以来、『より良い保育』の提供を課題に全職員で一丸となって取り組んで参りました。最も子どもたちの大切な人的環境である職員は、質の向上を目標に外部研修・園内研修にと力を注ぎ、子どもたちに寄り添う保育を第一に日々の保育の振り返りを行いながら向上心を大切に良い環境となれるよう努力して参りました。

八年間の歩みの中で、地域との交流も深まり、地域の方と一緒に球根を植えたり、コマ回しを教わったり、防災訓練を行ったり、地域の方々に支えられ良い関係が築き上げられていますことに感謝申し上げます。また、幼保小の連携では、推進地区事業の取り組みを三年間行うことで、学びも多く職員、子どもたちの大きな財産となり、今後も継続して取り組んで参ります。

今回は、コロナ禍での第三者評価受審にあたり、全職員で自己評価に取り組み、会議を重ねる中で丁寧に保育を振り返ることにより自分自身を見直し、園全体を見直すことが出来ました。その過程においてにじいろ保育園新杉田の現状が明らかになり、課題や改善点を全職員で確認することで今後の進むべき方向性を話し合う良い機会となりました。

保護者の方々には、日頃から温かいまなざしで子どもたちの成長を見守っていただき、保育運営に対するご理解・ご協力に感謝の気持ちでいっぱいです。また、お忙しい中、アンケートにご協力いただきまして誠にありがとうございました。多様なご意見を頂戴し、新たな気づきと発信不足を痛感しました。アンケート結果を真摯に受け止め、コロナ禍での新たな保育運営を保護者の方々と共に構築していきたいと考えております。今後ともご支援・ご協力を宜しくお願い致します。

今後にもじいろ保育園の子ども・保護者・職員の一人ひとりが生き生きと輝いていける保育園であり、「明日も保育園に行きたい!」という思いを大切に子どもたちに『生きる力』の土台を育くむ保育をして参ります。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり